

横浜市における自殺の現状（概要）

—平成 21 年警察自殺統計データ（県警データ）を用いた解析—

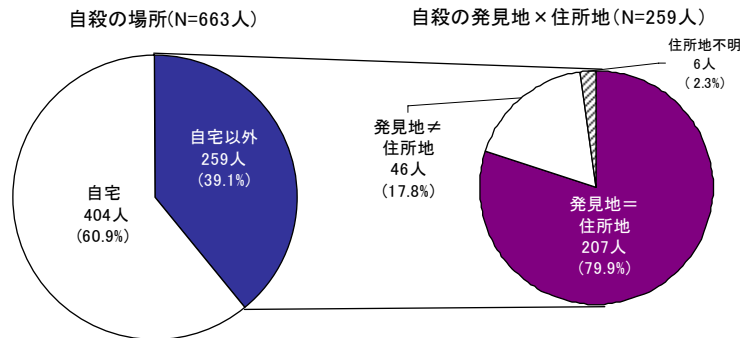
1 自殺者数の内訳（発生月・曜日・時間・場所×手段）

- 平成 21 年は、全国の自殺者数は 32,845 人で、横浜市の自殺者数は 663 人（男性 475 人 女性 188 人）でした。
- 全国、横浜市ともに男性の自殺者数が女性より多く、全体の 7 割を占めています。
- 男性は 4 月（54 人）に、女性は 2 月（21 人）に最も多く自殺がみられました。
- 男性は水曜日の自殺（77 人）が最も多く、女性は火曜日の自殺（38 人）が最も多くみられました。
- 自殺の時間が判明した 405 人（男性 287 人 女性 118 人）のうち、男性では 17 時（23 人）に、女性では 7 時、11 時、22 時（各 8 人）に自殺した人が最も多くみられました。
- 男女ともに「自宅での首つり」（男性 210 人 女性 96 人）が最も多くみられました。

2 自殺者の発見地と住所地

平成 21 年の県警データから、自殺者の発見地と生前の居住地について、市区町村レベル（横浜市では区単位）までの情報が提供されるようになりました。

- 横浜市で発見された自殺者のうち、生前の居住地が市内の者は全体の 9 割以上を占めました。
- 自宅以外で自殺した者のうち、8 割近くが居住地と同じ区内で自殺していました（図）。



3 自殺者の背景（職業・自殺未遂歴）

- 男女ともに「無職者」の自殺者数（男性 226 人 女性 144 人）が最も多くみられました。
- 平成 20 年は、男性での「自営業者・家族従業者」の自殺者の割合(6.9%)が、全国(12.6%)より低くみられましたが、平成 21 年では全国との差はみられませんでした。
- 自殺未遂歴「あり」の者の割合は、男性（13.1%）より女性（34.6%）に高くみられました。

4 自殺の原因・動機（原因・動機は 53 種類の中から最大 3 つまで挙げられる）

- 「遺書」「自殺サイト・メール等への書き込み」「生前の言動」といった自殺の原因や動機を判断する資料（以下、判断資料）を残した者は 378 人で、全体の 6 割近くを占めました。
- 判断資料を残す者の割合は、男性（54.3%）より女性(63.8%)に多くみられました。
- 男女ともに「遺書」を判断資料として残す者（男性 184 人 女性 75 人）が最も多くみられました。
- 男女ともに、原因・動機として「健康問題」が含まれる者（男性 125 人 女性 91 人）が最も多くみられました。

今回の結果は一時的なものとも考えられるため、自殺の傾向については、経年的な動向を確認するなどの検討が必要です。